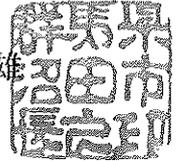


沼 建 第 6 2 0 号
平成20年10月16日

国土交通省道路局長 様

沼田市長 星 野 已 喜 雄



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

標記の件につきまして、別紙のとおり提出いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

群馬県沼田市

1. 工業化社会が成熟化し情報化社会の進展により地域間格差の解消が期待されたが、現実には格差は拡大し、地域経済は出口の見えないトンネルの中にあると思えてならない。
1. 公共事業は、「景気対策の切り札」として多用されてきたが、今日ではその効果は期待できず、また、財政悪化を背景とする公共事業縮減の中で、公共事業そのものが地域経済を支える役割は期待できない時代となった。
1. これまで国道、県道、市町村道と役割分担し、その整備が図られてきたが、これからは地域の産業や暮らしに密着したソフト事業との一体的整備が必要と考えている。

○現状

1. 経済のグローバル化や三位一体改革により地域経済は疲弊しており、地域住民の暮らしを支え地域経済を活性化を図ることが急務となっている。
1. 合併により市域が広がったが、一体感を醸成するための道路整備が必要となっている。
1. 国道120号線沿線は商業施設の進出や宅地化が進み、交通量が増大しており、これを地域の活性化に活用する必要がある。
1. 当市の利根町（赤城根地区）において、限界集落が存在しこの対応を図らねばならないが、幹線道路がネットワークとして機能していない。（観光を振興したいが、観光バスが通れない箇所があるなど）

○課題

1. その為には単に「通過交通対策」としての道路整備ではなく、地域の実情に合った、地域経済の活性化に役立ち、地域住民の暮らしを支え得る道路網として整備する必要がある。
1. 具体的には
 - ・地域の一体感の醸成→国道120号椎坂トンネル整備
 - ・地域産業の活性化→①ロマンチック街道のシーニックバイウエイの推進
 - ②県道日向南郷・大原線の局部改良
 - ③千歳橋の拡幅改良

1. 当市は、群馬県最北部の利根沼田地域の拠点都市である。また、利根沼田地方は、自然が豊かで、温泉も豊富で、年間観光入り込み客数が1000万人を超え、農業と観光が主力産業となっている。
1. 当市は、第五次総合計画において、「水と緑の大地 田園空間都市」を掲げ、地域資源を活用し交流拠点として、個性豊かなまちを目指している。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価）

様式④

群馬県沼田市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模な地震、火災に強い国土づくり等 ・ 地域活力の向上 ・ 地震に強い国土づくり等 ・ 良好な景観の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道 17 号綾戸バイパス整備事業 ・ 国道 120 号椎坂バイパス整備事業（トンネル整備） ・ 県道日向南郷・大原線局部改良事業（橋りょう・トンネル拡幅整備） ・ 橋りょうの耐震診断・耐震設計・耐震改修事業の国庫補助創設 ・ 利根沼田県民局地域公共事業調整費（橋りょう高欄塗装等修繕工事） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急峻な地形による落石災害等、地震時における交通遮断を防止し、安心安全な生活圏域の形成 ・ 新市は椎坂峠で分断されており、トンネル整備による市域の一体感の醸成 ・ 日本ロマンチック街道及びシーニックバイウエイ並びに風景街道として沿道の歴史、文化、自然とのふれあい空間の整備、また、沿道景観の統一の立ち上げと取り組みによる地域産業の活性化 ・ 景観資源、自然資源、観光農業等ネットワーク化の確立並びに観光客数の拡大 ・ 本市では千歳橋を始め大小合わせ 312 橋あり、その大半は昭和 30 年代に架設され、補修や架け替えが必要な橋りょうが多い、これら橋りょうの耐震改修事業を推進し、地震時に災害物資の輸送路または避難経路の確保するとともに集落の孤立化を防止 ・ 地域幹線道路である県道に架かる橋りょう高欄の塗装、横断歩道橋の塗装、歩道のカラー塗装など、修繕による幹線道路沿道の景観イメージの向上並びにリピーターの拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H20 測量調査に着手 ・ H20 測量設計に着手 ・ 群馬県に要望中 ・ 財政難により未着手 ・ H19 から事業実施